

## 第3回意見聴取委員会を踏まえた検討結果について

	主な意見	検討結果・対応方針
①	動物園と植物園の一体化はぜひ取り組んでもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物園と植物園の一体階については、展示方法の改善の1つとして、「動植物を一体化した展示に取り組み、生息域を感じる展示を目指します」という項目を素案に記述しました。（素案P32）</li> <li>また、「将来を見据えたエリア計画」の中で、「①ふるさとの自然」及び「⑨亜熱帯の森」において、現在の植物園エリアにも動物を展示し一体化を図ることとしています。（素案P18～19、P27）</li> </ul>
②	開園100周年に向けた整備エリアは素晴らしいので、特に視点場を意識した整備を進めてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>開園100周年記念整備エリアについては、本計画の目玉として素案に盛り込みました。（素案P30）</li> <li>整備の内容についても、広大なサバンナと低木リンの再現や、サバンナの先に江津湖の景観を創出するなど、視点場を意識した整備を行いたいと考えています。</li> </ul>
③	<p>「水辺のインフォメーションセンター」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中高生などへの教育の要素を取り入れてほしい。</li> <li>「水辺のインフォメーションセンター」と「いきもの学習センター」のすみ分けをしっかりと必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中高生などへの教育の要素については、「いきもの学習センター」を熊本市の自然環境教育の拠点施設として位置づけ、関係機関と連携しながら推進したいと考えています。</li> <li>2つの施設の棲み分けについては、「水辺のインフォメーションセンター」については、江津湖に特化した情報集積・発信施設とし、「いきもの学習センター」江津湖のみならず全てのいきものに関する自然環境教育の拠点施設とすることで、すみ分けを図りたいと考えています。（素案P35、P37）</li> </ul>
④	案内サインには統一したデザインコードが必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘を踏まえ、「案内サインの改修」の項目において、今後の案内サインの改修については、「統一感のあるデザイン」にて実施するよう記載しました。（素案P44）</li> </ul>
⑤	獣舎の整備には動物の福祉に配慮してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の福祉については、環境エンリッチメントの取り組みなどもおこないつつ、動物たちの福祉に十分配慮した展示を行ってまいります。（素案P33）</li> </ul>
⑥	プランの建設費用や将来の運営コストなどを計画策定後に早めに整理するべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>プランの建設費用及び運営コスト等については、計画策定後に早急に整理を行います。</li> </ul>
⑦	動物サポーター制度を残してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の動物サポーター制度は、動物たちのエサ代になるという参加意識と、年間パスポートとしての機能がありました。この制度の見直しの中では、「応援する参加意識」と「年間パスポート」の機能は残しながら、寄附の充当先を「動物の福祉に配慮した施設整備」とすることで、これまで以上に、動物ファンの満足度を向上させるような制度にしたいと考えています。</li> </ul>
⑧	動植物園だけでなく、都市建設局、環境局、教育委員会などと連携を密にして取り組んでもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物園マスタープランや、水前寺江津湖公園利活用保全計画、緑化フェアに向けた取り組みに等、都市建設局と連携し取り組みを進めてまいります。また、生物多様性については、環境局と更なる連携を行い事業を推進してまいります。更には、教育委員会から助言をいただきながら「水辺のインフォメーションセンター」について整備を進めてまいります。今後も、動植物園だけでなく、関係各局と連携を行いながら、事業運営を行ってまいります。</li> </ul>